

# 普通科における教科「情報」の変遷

京都府総合教育センター 研究主事兼指導主事 林 博 之  
研究主事兼指導主事 平 野 学

## 要約

学習指導要領（文部科学省:2019）において、教科等横断的な情報活用能力の育成が求められており、高等学校における教科「情報」の概要の理解は情報科以外の教員にとっても必要である。

教科「情報」が始まった頃には、教科「情報」の履修状況や学習内容を報告した論文が多数あり（西田:2005, 高橋:2005, 杉江・大崎:2007など）、これらの論文を参考に、情報科以外の教員へ紹介する目的で、教科「情報」における科目の変遷と用語を整理した。

結果、前学習指導要領では「情報A」が、現行学習指導要領では「社会と情報」が多数の学校の教育課程で実施されていること、新学習指導要領の「情報I」では、プログラミング・プログラムや情報デザインといった「情報A」や「社会と情報」で未出の用語がみられることについて、数値化した。

キーワード：情報I，プログラミング，情報デザイン

## 1 はじめに

普通教科「情報」は平成15年度（2003年度）高等学校入学生から始まった。このため、30歳代及びそれ以上の多くの教員は「情報」の授業を受けていない。一方、後述のように、20歳代の教員の多くは「情報A」を履修し、コンピュータやデジタル化の仕組みや、文書処理や表計算の操作技術、ネチケット（利用時に心がけるマナー）などを学んでいる。20歳代の教員は教科「情報」について、自らの学習した内容をイメージしているかもしれない。しかしながら、教科「情報」の用語や扱うべき内容は、情報機器の発達やICT環境の発展、社会一般への浸透に合わせて変わってきている。

新学習指導要領の実施に向けて、他教科との連携を考えた場合、広く、教科「情報」の特徴を紹介することは意義があると考えられる。本稿では、情報科以外の教員へ、教科「情報」を紹介する目的で、その科目の変遷と用語について調べた。なお、筆者自身が職業科設置高等学校勤務の経験が少なく、以下は普通科における教科「情報」について述べたものである。

## 2 変遷と選択者数と所感

平成15年度（2003年度）から始まった教科「情報」は、当初「情報A」、「情報B」、「情報C」の3科目から1科目を履修することとされていた。これが、平成25年度（2013年度）から「社会と情報」と「情報の科学」の2科目から1科目の履修に変わり、さらに、令和4年度入学（2022年度）からは「情報I」が全員必修となる。なお、標準単位数はすべて2単位で同じである。

教育課程の編成・実施状況調査（文部科学省）には、2・3年毎に、全国調査結果が掲載され

ている。平成18年度入学者、平成25年度入学者の調査結果を表1に記す。この調査結果を見ると、前教育課程では「情報A」が、現行教育課程では「社会と情報」が多数の学校で実施されている。平成30年度使用教科用図書（府立高等学校）一覧によると、8割以上の学校で「社会と情報」の教科書が利用されており、京都府における教育課程の編成・実施状況も同様である。

「情報A」や「社会と情報」と、他教科との連携については、「『情報』で操作を学び、他教科でコンピュータを利用する」もしくは「他教科で学習したことを、『情報』でまとめて発表する」といったことが多かったと思われる。

表1 教育課程の編成・実施状況調査（文部科学省:2019）

平成18年度入学者	1年	2年	3年	合計
<b>情報A</b>	<b>60.4 %</b>	<b>20.9 %</b>	<b>12.5 %</b>	<b>93.8 %</b>
情報B	5.3 %	7.3 %	12.4 %	25.0 %
情報C	7.4 %	5.2 %	14.3 %	26.9 %

平成25年度入学者	1年	2年	3年	合計
<b>社会と情報</b>	<b>59.3 %</b>	<b>19.1 %</b>	<b>10.1 %</b>	<b>88.5 %</b>
情報の科学	8.7 %	7.5 %	11.7 %	27.9 %

表2 学習指導要領教科「情報」内の用語

	前学習指導要領			現学習指導要領		新
	情報A	情報B	情報C	情報の科学	社会と情報	情報I
コンピュータ	8	21	2	5	1	11
情報通信ネットワーク	8	1	10	8	9	8
情報社会	3	2	2	7	7	10
情報技術	2	8		11	2	1
情報機器	6		4	1	5	
コミュニケーション			4		7	8
データ ※1	3	3		4		8
情報システム			3	3	5	3
デジタル	1	1	5		4	
情報セキュリティ				2	5	3
ソフトウェア	4	2	2	2		
モデル		3		2		4
<b>プログラ</b> ※2		<b>2</b>		<b>1</b>		<b>5</b>
シミュレーション		2		2		3
<b>情報デザイン</b>						<b>7</b>
サービス				3		3
メディア					2	4
アルゴリズム		2		1		2

※1: データベースを含む

※2: プログラム・プログラミング

### 3 用語の変遷と所感

次に、教科情報のそれぞれの科目における用語についてテキストマイニングで傾向を調べた。前及び現行、新学習指導要領（第10節 情報）の用語の内、合計5回以上出てくるものを表2に記した。これを見ると、「情報Ⅰ」では、プログラミング・プログラムや情報デザイン等、「情報A」や「社会と情報」で出てこなかった用語がみられ、デジタルやソフトウェアという用語は見当たらない。「情報Ⅰ」の教科書が発行されていない現段階で、用語からのみ判断すると、プログラミングと情報デザインが今回の「情報Ⅰ」の大きな特徴になるだろう。さらに、今後は新学習指導要領（文部科学省:2019）にあるように、教科等横断的な情報活用能力の育成を目指し、「他教科の学習内容をプログラムにより確かめる」、「他教科で情報デザインの手法を活かしてまとめる」といったことも求められると思われる。

#### <参考文献等>

京都府教育委員会『平成30年度使用教科用図書（府立高等学校）一覧』

[http://www.kyoto-be.ne.jp/gakkyou/cms/index.php?page\\_id=91](http://www.kyoto-be.ne.jp/gakkyou/cms/index.php?page_id=91)

文部科学省1999『学習指導要領（平成11年）』第2章普通教育に関する各教科 第10節 情報、

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/cs/1320181.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/cs/1320181.htm)

文部科学省2009『学習指導要領（平成21年）』第10節 情報

文部科学省2018『学習指導要領（平成30年公示）』第10節情報

文部科学省2019『教育課程の編成・実施状況調査』

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1263169.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1263169.htm)

西田知博2005『高等学校における教科「情報」関連の現状と今後の展望』

<https://www.cmc.osaka-u.ac.jp/publication/for-2005/05-10.html>

杉江晶子・大崎 正幸2007『2006年度問題における情報リテラシー教育のあり方』名古屋文理大学紀要, 7, pp29-32

高橋参吉2005『高等学校教科「情報」の現状と大学初年度の情報基礎教育のあり方』

<https://www.cmc.osaka-u.ac.jp/publication/for-2005/11-16.html>